

メディアセンター運営基本方針

岩手県立大学メディアセンターは、個々のメディアを充実させるとともに、先駆的な学内情報システムを駆使し、マルチメディア化の促進を図ることとする。

それにより、各種情報の収集及び教育研究成果の一元的な蓄積、管理、提供を図り、本県における情報発信拠点として地域に対し貢献を果たすとともに、学内情報システムを総合的に管理し、もって本学の教育及び研究の推進に寄与するものとする。

メディアセンターは、次に掲げる事項を運営の基本方針とする。

1. メディアの融合化

現在、個々独立して活用されているメディアを相互有機的に関連付けることにより、蓄積時における省スペース化、管理時におけるデータベース化、提供時におけるネットワーク化を推進し、学内のいたるところからでも簡単に求める資料の検索が可能となる環境を提供し、次項以下に掲げる方針に基づきデジタル化された情報の流通を促進する。

2. 電子化の促進

学内における各種資料、とりわけ学内で作成される論文、紀要、その他の情報について積極的に電子化を推進し、CD-ROMへの記録、VOD、FTPサーバなどへの登録などにより、情報の活用を図る。

また、電子化された情報は積極的に導入するなど、ペーパーレス化の推進に努める。

3. メディア情報のデータベース化

図書、CD-ROM、文献、ビデオ等保有資料のデータベース化と一元管理により、迅速、的確な情報を効率よく提供できるシステムを構築する。

4. ネットワークによる情報の共有化

現在主流の光ファイバーを活用したネットワークや、今後大いに期待される通信衛星を活用したグローバルなネットワークの構築に積極的に参画し、それを活用することによりいつでもどこでも世界中のメディア情報をリアルタイムで入手可能とするとともに、本学からも積極的に情報を発信することにより、国内はもとより広く世界の大学や研究機関との連携を図る。

5. メディアの充実と分散化

本学の中核施設としてメディアセンターには、学内で共通的に利用する分野のメディアを充実させる。一方、特定の分野（学部）のメディアについては、各種資料室等に分散配置することにより、メディアセンターのスペースの効率的な活用を図る。

また、他大学間との連携強化により、各大学が重点的に蓄積するデータを、デジタルデータ等により相互に自由に融通し合う環境の構築に努める。

6. 地域社会への貢献

教育研究活動により収集蓄積された各種情報を積極的に発信するとともに、岩手県立図書館等県内における各種施設とのネットワーク化により、各種メディアの交流を図る。

また、計算機資源及びネットワーク資源の一般開放並びに民間企業に対する産学共同実験施設の開放等を通じ、地域社会への貢献を積極的に果たしていくこととする。

7. 技術革新への対応

学内情報システムの安定的稼働、円滑な運用はもとより、学内情報システムが陳腐化することのないよう、システムの汎用性、拡張性を考慮しながらシステムの高度化に努め、技術革新に対応した環境の継続的な提供を図ることとする。

メディア：書籍類の印刷媒体、動画、静止画、音声、テキスト、その他情報伝達手段として活用されるデータをデジタルコンテンツ化したあらゆる媒体